

日本骨髄バンクの現状（2000年2月末）詳細は別添一覧を参照下さい。

	前月	当月	現在数	累計数
ドナー登録者数	1,184	1,216	134,966	162,044
患者登録者数	121	116	1,625	10,513
骨髄移植例数	65	57	-	3,205

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。

① 中央省庁初、厚生労働省でドナー登録会開催。東京23区も開催へ

2月のドナー登録者数は1216人でしたが、取消数は過去最高の849人にのぼり、実質増加数は367人ととどまりました。登録会は20回実施され（うち献血並行型17回）、合計309人の方々にご登録をいただきました。都道府県別開催数は、沖縄8回、東京5回、和歌山2回、福島1回、千葉1回、神奈川1回、埼玉1回、佐賀1回という実績でした。2月28日（水）、3月1日（木）両日、厚生労働省講堂においてドナー登録会が開催されました。これは、年2回、厚生労働省で定期的に行われている職場献血会にあわせて実施されたものです。2日間で献血者315人と65人のドナー登録者がありました。庁舎内の各職場への事前の開催案内だけでなく、全職員にチャンス配布。医療・保健衛生の所管官庁ということで、職員の関心は高いものがあり、献血者に対するドナー登録の割合は、20.6%と高い率をしめしました。一方で、いままで登録の仕方がわからなかったという声も聞かれました。今回の登録会の開催にいたるまでの、関係各位のご尽力に心よりお礼を申し上げます。2月21日（水）には、東京都港区役所で、東京23区（特別区）初の献血会場におけるドナー登録受付が実施されました（献血者113人、ドナー登録者7人）。2月27日（火）には、第2段として大田区役所でも実施されました（献血者110人、ドナー登録者12人）。さらに、3月14日（水）には渋谷区役所においても実施され（献血者79人、ドナー登録者7人）、他の特別区からも問合せが相次いでいます。

② 骨髄バンク「患者問い合わせ窓口」を開設しました

骨髄移植推進財団事務局に「患者問い合わせ窓口」を開設いたしました。当窓口では、骨髄移植を考えている患者さんとその家族のために、骨髄バンクに関する質問などに回答すると同時に、骨髄移植に関連する情報提供も行っております。登録されている患者・家族の方々の利便を図り、骨髄バンクに関する理解を深めていただくとの趣旨で開設したものです。また、当窓口への問い合わせ内容を分析することで、患者さんの要望を反映させたよりよい骨髄バンクシステムを構築するためにも役立てていきます。さらに当窓口では、骨髄バンクに登録された患者さんに、「患者さんと主治医のためのパンフレット」「骨髄バンクニュース」など、資料セット一式を送付致します。概要は以下のとおりですので、どうぞお気軽にお問い合わせください。（なお、医学的な判断に関するご質問にはお答えできませんので、あらかじめご了承ください）

電話番号 03-3355-8699（ハローQQ）

開設時間 月～金の平日 10:00～12:30、13:30～15:30

対応内容 骨髄バンク利用に関する質問/コーディネートが進み方について/骨髄バンクにお支払いいただく費用について/患者とその家族のための協力機関のご紹介/「患者さんと主治医のためのパンフレット」送付/その他

③ 3月30日（金）、当財団理事会、評議員会が開催されます。

3月30日（金）、当財団の通常理事会（13:15～）、評議員会（14:45～）が、法曹会館（東京・霞ヶ関）において開催されます。1）平成12年度補正予算案、2）平成13年度事業計画案、3）平成13年度予算案について、審議されます。また任期満了に伴う理事・監事および評議員の選任も行われる予定です。なお、理事会、評議員会は公開で行われており、傍聴が可能です。

④ ライオンズクラブが『献血ルームでの献血とドナー登録会』を企画

4月12日（木）、新宿東口献血ルームで、東京地区のライオンズクラブによる献血とドナー登録会が開催されます。同地区の献血・骨髄移植推進委員会が「献血ルームに出かけ、会員みずから献血し、同時にドナー登録も推進しよう」と企画したものです。同委員会の方々には、骨髄バンクドナー登録説明員研修にも積極的に参加していただいております。今後、委嘱されたメンバーによる献血会や献血ルームでのドナー登録受付説明が実施されることが期待されます。献血ルームでの登録会方式では、2月25日（日）川崎市みぞのくち献血ルームでの登録会で、41人の登録者を得るという成果をあげ、大都市部での新しいドナー登録推進方法として注目されています。

5 「ドナー登録30万人の早期実現について」患者関係者有志が陳情

3月7日(水)、骨髄移植を必要とする患者関係者有志12人の方々が、厚生労働省、日本赤十字社、当財団に対し、ドナー登録者30万人のための早期実現策をただちに実行に移すようとの要望書を、患者さんや家族からの手紙を添えて提出しました。厚生労働省には、早期達成のための年度計画をしめすこと、日本赤十字社には、すべての献血会場でのドナー登録の広報と受付を行うこと、当財団には、広報活動を強化することなどが要請されました。ドナーを待っている患者さんは「もしこのままドナーが見付からなかったら...と思うと本当に恐ろしい」。亡くなられた患者さんのご家族は「私たち家族の悲しい思いはもう誰にもして欲しくはない」と手紙に綴りました。昨年、患者登録された1555人のうち15%(236人)の方に適合ドナーが一人もみつかっていないという現実があります。要望書の内容と関係者の思いを真摯に受け止め、普及啓発活動、ドナー登録推進、コーディネート迅速化、ドナーの安全対策に一層の努力をしていきたいと思ひます。

6 亡くなったアーティストの作品、国際アートフェスティバルに展示

3月28日(水)から4月1日(日)まで東京・有楽町の東京国際フォーラムの展示ホール、ロビーギャラリーにおいて「第7回国際コンテンポラリーアートフェスティバル(略称NICAF)2001Tokyo」が開催されます。国内外の著名な作家から新進のアーティストまで約350名による厳選された2000点の近現代アート作品が展示されるアジアで最大のアートイベントです。NICAF事務局のご厚意で、会場内に骨髄バンクのためのスペースが設けられることになりました。三瓶彩子ちゃん(1990年急性リンパ性白血病のため逝去)の絵と、鈴木章さん(98年急性リンパ性のため逝去)のコンピュータグラフィックスの作品が、入り口近くの壁面を飾ります。ぜひ、多くの方にご覧いただきたいと思ひます。開催時間は10:00~18:00。

入場料は1500円(前売900円)。

問合せ先：NICAF事務局(電話03-5212-1925)

7 中溝裕子さん著「みんながいるから 今があるから」が出版されました

1991年に骨髄異形成症候群を発病し、97年に妹さんからの骨髄移植をうけたプロゴルファーの中溝裕子さん。彼女が病床で書きためた絵手紙と一筆書きをおさめたエッセー集が、集英社から出版されました(定価1680円)。「よくぞ耐えたぞ 長き入院生活 誉めてつかわす」など筆文字からは力強い生へのメッセージが伝わります。彼女の合併症との闘いは現在も続いています。ホームページ(<http://www.nakamizo-book.com>)などを通じて、ドナー登録を呼びかけてくださっています。3月21日(水)のNHKラジオ第1「ラジオタ刊」(18:00~18:50)で中溝さんのインタビューが放送され、翌22日(木)の同番組には埴岡事務局長が出演、骨髄移植やバンクについて話します。

国際協力事業の状況()、HLA照合サービス状況期間

日本 米国	
米国 日本	
日本 台湾	
台湾 日本	
日本 韓国	
韓国 日本	
その他の国 日本	

* 4半期ごとに掲載です。

お知らせ

当財団への問合せが激減しています。各団体や企業、サークル等の機関紙にドナー登録問合せ電話「財団フリーダイヤル0120-445-445」の掲載をお願いします。マスコミ取材の際にも掲載依頼をお願いします。